

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396300036		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム豊根の家		
所在地	愛知県北設楽郡豊根村上黒川字中村6番地の1		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和4年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyouyoCd=2396300036-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和3年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症対策に取り組み2年近くが過ぎようとしています。職員の抗体検査や福祉関係の優先ワクチン接種、マスク装着、検温、手指のアルコール消毒、3密回避等毎日目まぐるしい感染対策実施に入所者様、職員の一致団結で頑張ってきました。日常生活での行動自粛やご家族様の面会規制なども協力体制をお願いしてきました。地域の農家さんより観光客の減少の為、売れない野菜や果物の差し入れも多く頂きました。北設楽郡で一番小さな村として豊根村役場を初め村民の結束の固さは感染者数1名を継続するほど徹底されています。一日も早い景気回復を心から願い自然豊かな山々が賑わう日を入所者皆様、地域で応援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年初春、入院後戻ってきて食が進まない利用者へ食べたいものをきくと鰻というので、食レク企画として注文して皆で食べたところ、当人のみ嘔吐・熱発で救急搬送され、簡易検査で偽陽性がでて上を下への大騒ぎとなったものの、翌日の適正検査では陰性、本人の症状も尿路感染とわかり、胸をなで下ろした日もありました。そこからPCR検査は必至として実施の運びとなり、さらに2回のワクチン接種に至っています。現在ではウイズコロナが浸透していて、例えば定期受診には自然な流れで職員が利用者に出出前の検温、マスク装着を施す姿が見られ、心配は続く中でも穏やかな日々が戻っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の掲示をして職員が共有して実践に繋げています。	法人は事務所、事業所は玄関と、それぞれ理念は目に入る場所に掲示のほか、法人理念は毎週月曜の朝礼で各職員読んだことをサインして確かなものとしています。	事業所理念を毎月の介護目標に反映させて具体的に実施することは大変有意義ですが、今後は振り返りの機会もつくることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症の自粛もあり交流が出来ませんでした。が野菜や果物の差し入れを頂きました。ご家族様からの手作りマスクなども頂きました。	花まつり(灌仏会)や茶臼山の芝桜鑑賞など恒例行事はことごとく中止なものの、近隣から届く大根や白菜は毎日の味噌汁の具となり、毎食地域のエールを感じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自粛の多い中野菜や果物の差し入れなど頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症対策で開催は3回でしたが、文章で情報提供を3回行い共有しました。	「家族と地域とつながりを大切にする」と理念に謳っているだけあって、運営推進会議は行政と地域、家族、事業所とで満遍なく構成され、隔月開催に至っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウィルス感染対策などで行政の担当者と電話連絡を行い情報交換を心掛けている。	「PCR検査をなんとかお願いしたい」といったことをはじめ、「今、なんとかしたい問題」を運営推進会議を通じて訴えることができるとともに、要望にはきめ細かな配慮を以て対応してもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月AA課程、朝礼、身体的拘束適正化検討委員会会議を3ヶ月に1度の実施し徹底を図っている。同時に虐待防止法も行っている。	本件に係るプログラムを2回、虐待防止を1回、年間研修に位置づけ、身体的拘束適正化検討委員会も3ヶ月毎に欠かさず実施しています。委員会ではカンファレンスさながらの熱を帯びた協議があることを書面確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時のA課程とB課程、毎月AA課程、朝礼、身体拘束適正化検討委員会会議を実施し、虐待の芽チェックリスト(年数回)等防止対策に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育研修等常に職員のレベルアップを図っている。新型コロナウイルス感染症防止対策のため社外研修は参加していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様へ説明や質疑応答に対応しています。変更が生じた場合も説明し同意をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行いつつでも意見や要望等に迅速に対処するよう心掛けている。	「電話予約のうえ2名まで」「検温・マスク・手指消毒」「ワクチン接種2回済」との条件付きで駐車場のベンチにて面会を実現させており、家族と利用者本人の「会いたい」要望に添えています。	村民からの差し入れなども通信に掲載していますが、村外在住者により伝わるよう写真が増えると、なお良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行い、職員の意見を聞き情報共有しています。また必要時は随時話し合いを行っている。	職員会議はその日勤務の者だけでおこなっていますが、管理者が議事録をまとめて回覧のうえ、必ず目を通しサインするルールとして、お報せや意見を共有できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の労働環境を考慮した勤務形態に取り組んでいます。また給与、賞与にも反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務所内、フロアーに外部研修への参加案内を促し資格取得の参加もサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染対策で交流は自粛していましたが、東三河広域連合の最新情報はホームページで情報確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや、家族からの要望を文書や電話で確認を取りサービスに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時やその都度ご家族様へ説明や質疑応答に対応しています。変更が生じた場合も説明し同意を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明や契約時に本人、家族情報を収集しフェイスシートやアセスメントに記載している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の出来る事を職員と一緒に行うことで日常生活に参加している実践を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の支援を示し、本人や家族の意向の支援に柔軟に繋がっています。自粛規制のため電話連絡を多く行いました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策で地域の方々との交流は自粛しました。	従姉妹・親戚・同窓生と顔見知りや馴染みの利用者同士で地元ならではの会話が弾んでいます。地区の人が数名入居していることから柿や蜜柑、ジュース、饅頭を差し入れてくださる住民もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内の消毒、マスク装着で生活リハビリやレクリエーションの参加を行い関わるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても家族からの相談に対応している。村内の情報交換はしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新型コロナウイルス感染症対策で希望、意向を日常生活の中で出来る範囲の取り組みを行っている。	年2回ぐらいは外食していて、年齢的にも食べることが大きな楽しみであるため、「何食べたい？」は日常的に尋ねています。食べたいものを提供するとともに、帰宅願望が強い人には寄り添って話を聴くよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅の基本情報や本人、ご家族様から情報収集している。また新しい事実はその都度記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務日誌で一人一人の心身状況、残存機能に応じた生活の把握に努めている。新型コロナウイルス感染防止対策で毎日、朝食後と入浴前の検温を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を電話で確認して、モニタリングやアセスメント、介護計画に反映させている。	標準的な取組みは敷かれています。「電話を1ヶ月1回は入れてほしい」と家族にお願いする例や、お嫁さんが職員というケースもあり、今後は介護計画書にも一人ひとりのニーズをより組込んでいきたいとしています。	2表の担当者欄には介護職員以外も入るような取組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌で実践し各自の介護計画を作成し個別ケアの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染対策などで面会規制時は定期受診や体調不良に合わせて職員が柔軟に付き添いの対応を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染対策などで外出自粛の制限がありましたが、近隣の散歩、ドライブなど密を避け気分転換をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策などで定期受診の延長や服薬のみの対応を主治医の指示で臨機応変に対応している。	ワクチン接種でも「事業所に行こうか」と親切に声をかけてくださる豊根村診療所が協力医です。職員も同時に対応してもらえ、利用者職員とで2グループに分かれ無事2回の接種を完了しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策などで緊急の病院受診が必要かとの情報交換しながらいつでも体調不良の連絡が取れる様にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	新型コロナウイルス感染対策防止などでさらに情報交換を取るよう連絡を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から、本人、家族と相談し支援の方向を確認している	本人・家族から「此処で最期まで」との要望が高まり、運営推進会議でも豊根村診療所の協力を仰ぎたい旨進言しており、今後は地域家庭の在宅診療と同じ方法でおこなってもらえたらと望んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナ感染症の緊急時の対策や施設内の対応マニュアルを確認し実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害、新型コロナウイルス感染対策など役場との情報交換を行い対応している。施設の防災訓練は2回実施している。	9月には夜間想定防災訓練を運営推進会議メンバーの尽力を得ておこない、緊急連絡網の電話連絡訓練が叶っています。11月は職員の入れ替えがあったので時間調整がうまくゆかず日中想定の実施となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護や個人情報の守秘義務を遵守するよう徹底する研修が行われている。	年間研修には「倫理・法令遵守・個人情報保護」を位置づけ、継続的に学んでいます。また「本人の私物を触る必要がある場合や個室に入るときは声かけよう」と管理者から繰り返しアナウンスしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の希望を聞き取り、可能な限り自己決定出来る様選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその人が望む暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の選んだ衣類を職員と一緒に入浴準備で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	心身状況に応じて調理・盛り付け・片づけ・食器拭きを一緒に行っている。	冷たいものが苦手な人が多く、また身体を冷やさないようにと、夏でも1日1回は温かいお茶を提供しています。あんなに大好きだった小豆も胸焼けをおこすため、最近のおやつはフルーツポンチや牛寒が増えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新型コロナウイルス感染対策などで外食企画を仕出しのお弁当に変更したりして嗜好調査に反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後義歯うがい、歯磨きを実施しています。就寝時は義歯の除菌のため預かりにしています。口臭にスポンジや舌ブラシを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせて支援している。定期的な声掛け、誘導して、可能な限りトイレで排泄を促している。	円背の人はズボンを上げるのが難しいので「一緒に行きましょうか」と声をかけていますが、他の人も見守り程度で(平均介護度2.2)、終わったらパットや排便の確認をおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食事、水分摂取、適度な歩行運動で体を動かす様になっている。また医師処方便秘薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重し、入浴して頂いている。	週2日を清潔の目安としていますが、以前は「どうしても」という人にプラス1の対応をしていたこともあります。湯に浸かって身体も気持ちも緩み、職員と会話を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の生活リズム、体調にあわせて休憩、安眠出来る冷暖房の調節、照明、カーテン使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書を理解し入所者の服薬管理をしている。変化が見られた時はその医療機関に相談、受診している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人が何らかの役割を持ち、共同生活をしている。プランターで季節の花や野菜作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は新型コロナウイルス感染防止の外出自粛を行っていますが、外気浴は密にならない様少人数で行っている。	新城・豊川・設楽・東栄と福祉施設や行政からも感染者がでてしまい、感染した状況と戻ってきたときの対策をビデオに収めたもので学習を積む中、「やはり外出は無理」との判断から広い駐車場での散策と外気浴で耐える毎日です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナ感染症対策で本人の買い物は自粛して頂いている。必要なものはご家族様にお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りを支援している。携帯電話のメールや充電の介助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂に季節感のある花を飾り、季節の野菜をプランターで作っている。	オゾンの空気清浄機とハンドドライヤー(トイレ)が新しく設置され、換気も10時、12時、3時、5時とこまめに実施、清潔を保っています。クラフト作品に囲まれたリビングには時折職員が生花を飾り、コロナで外出しにくい利用者に季節を届けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー、ソファー、掘りごたつなど共同スペースでの共有や外気浴のベンチを置いて気分転換をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真、趣味の作品、毎月のカレンダー作品なども掲示している。	月日を意識して欲しいとして、毎月のカレンダーは塗り絵をおこなった後、各自居室の壁に掲げています。丸めて捨ててしまう人や塗り絵が困難な人には職員がなるべく原型を留めるよう適宜支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の心身状況や自分のしたい生活が出来るよう支援を行っている。(バリアフリー、ベッドの高さ、手すり、トイレ)		